



新潟大学旭町キャンパス 医師・研究者・医学生のキャリア支援の会

ひと^{ひろ}尋の会

- 2023 年度 活動報告書 -



新潟大学医学部医学科医学教育センターダイバーシティ推進支援室

新潟県医師会女性医師総合支援センター

目次

1 ご挨拶	1
2 ひと尋の会の概要と運営	2
3 今年度の活動のまとめ	3
3－① アンケート調査結果	3
3－② マタニティスクラブレンタルサービス開始	6
3－③ ひと尋 virtual café の開催	6
3－④ 第1回ひと尋の会フリーマーケットの開催	9
4 編集後記	9

1 ご挨拶

新潟大学医学部長
ひと尋の会会長
染矢 俊幸



医師・医学研究者・医学生のためのキャリア支援の会「ひと尋の会」を2019年10月に発足しました。

皆様には宮崎駿の「千と千尋の神隠し」の千尋の名前に使われている尋の字でお馴染みかもしれませんが、「尋（ひろ）」はもともと「人が右手と左手を広げた長さ」という単位を表す漢字です。その「右手と左手を広げている様子」から、両手をいっぱい広げて子どもたちを迎え入れる、困っている人を受け入れるという思いを込めて、会の名称といたしました。また、「尋」が長さの単位を表すことから「空間の広がり」「どこまでも続く可能性」や、「尋ねる」という言葉にも使われるように「深い道理をきわめる」といったイメージも名称に込めています。

少し難しい話になりますが、仏典には「わずか一尋のこの身」という言葉があります。一人の力は微かであっても、まずその一人が責任を持って、両手をいっぱい広げ誰かを受け入れること、そしてその輪が十尋、百尋、千尋と広がり、多様性を広く受け入れる社会となることを願うのが命名です。

働く意欲はあっても子育てのために復職できない、親の介護と仕事を両立したい、病気を持ちながらも治療と仕事を両立したい…など様々な背景を持つひとびとが、お互いを認め合い、励まし合うことができる社会。各自の多様性を受け入れ、その能力や経験を認めて、広く活躍の機会を与えることができる社会は、人に優しいと同時に、技術革新の原動力にあふれ、結果として大きな成果をもたらすと言われています。

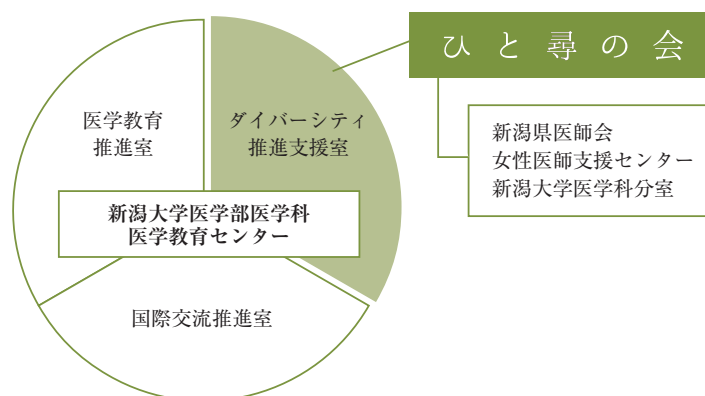
「ひと尋の会」は、男性、女性を問わず年齢の別なく集い、キャリアをめぐる医師・医学研究者・医学生の多様な意見を語り合う場、情報を交換する場、です。この会を通して、皆さんがそれぞれの経験や知恵を寄せ合い、助け合い、新潟の医療圏を、ひいては医療を通じて新潟の街をよりよいものに変えていっていただきたいと願います。

2 ひと尋の会の概要と運営

概要

新潟大学医学部医学科の医学生・医師・研究者のキャリア支援の会「ひと尋の会」は2019年10月に発足しました。窓口を新潟大学医学部医学科医学教育センターとしています。新潟県医師会女性医師総合支援センターの分室としての役割も担っており、女性医師が勤務し続けることができる環境の支援にも取り組んでいます。情報発信、相談窓口の開設、イベントの開催、事業の実施を通して、誰もが学びやすい場、働きやすい場の実現と維持を目指して活動しています。

組織図



コアメンバー

- ・ 染矢 俊幸（医学部長・精神医学教授）（会長）
- ・ 塚本 恵（新潟大学理事・キャタピラー代表執行役員）
- ・ 土田 正則（呼吸器循環外科学教授）
- ・ 佐藤 昇（肉眼解剖学教授）
- ・ 齋藤 昭彦（小児科学教授）
- ・ 齋藤 玲子（国際保健学教授）
- ・ 伊藤 明子（皮膚科学）
- ・ 小林 暁子（産婦人科学）
- ・ 岡崎 史子（医学教育センター教授）
- ・ 青木 亜美（医学教育センター）

3 今年度の活動のまとめ

3-① アンケート調査結果

ひと尋の会の活動に関連したアンケートを実施しました。キャリアを継続する上でどのような不安や困難を抱えているか実態の把握に努め、必要な支援に繋げていきたいと考えています。

今回のアンケートでは病児保育施設設立への要望が多く寄せられました。新潟大学には現在、病児保育施設がありません。病児保育設立に向けて働きかけを続けていきます。

ー 調査期間

2023年6月29日～7月12日

ー 対象者

新潟大学医学部医学科学生、新潟大学医歯学総合病院所属医師、新潟大学医歯学総合研究科医学系大学院生および教員

ー 方法

学務情報システム、メールで周知し、google フォームのアンケート形式で回答を得た

ー 調査内容

全14項目。属性（5項目）、病児保育関連（3項目）、ひと尋の会の活動関連（4項目）、ご意見・困っている事（2項目、自由記載）

ー 結果

a) アンケートの回収率は、7.3%（150名）だった。

b) 属性に関する質問

回答者は女性63名（42%）、男性87名（58%）で、年齢分布、職位は下記の通りだった（表1、表2）。現在育児を行なっている人は約半数（49.3%）、介護を行なっている人は9名（6%）だった。

表1 回答者の年齢分布（n=150）

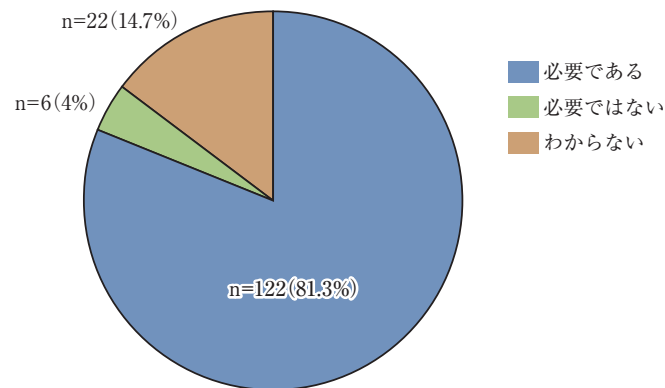
年代	人数	%
10歳代	12	8
20歳代	30	20
30歳代	52	34.7
40歳代	36	24
50歳代	15	10
60歳代	5	3.3

表2 回答者の職位（n=150）

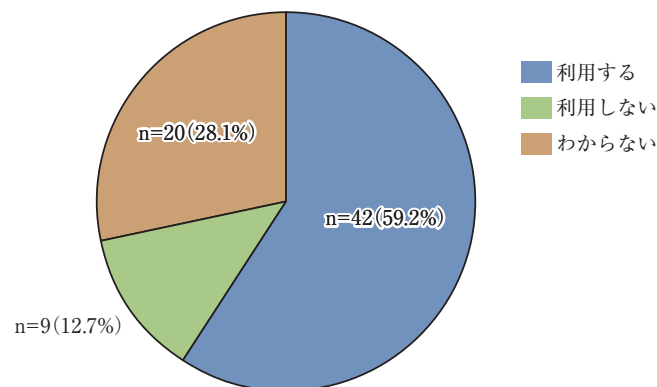
職位	人数	%
医学科学生	29	19.3
大学院生	31	20.7
初期臨床研修	3	2
レジデント	4	2.7
医員	14	9.4
助教	34	22.7
講師	8	5.3
准教授	11	7.3
教授	13	8.7
特任助手	2	1.3
特任専門職員	1	0.7

c) 病児保育に関する質問

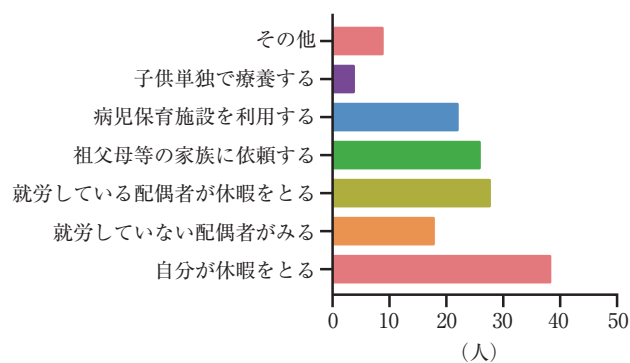
■ 大学病院内もしくは周辺に病児保育施設は必要だと思いますか (n = 150)。



■ 小学校6年生までのお子さんがいる方にお聞きします。新潟大学に病児保育施設が出来れば利用しますか (n = 71)。



■ 小学校6年生までのお子さんがいる方にお聞きします。勤務日にお子さんが病気になった時、どのように対応していますか。頻度が高いものを選択、複数回答可 (n = 71)。

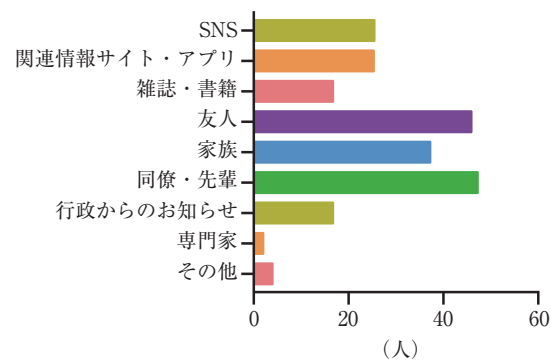


d) ひと尋の会の活動に関する質問

■ ひと尋の会があることを知っていますか (n = 150)。

はい：85名 (56.7%)、いいえ：65名 (43.3%)

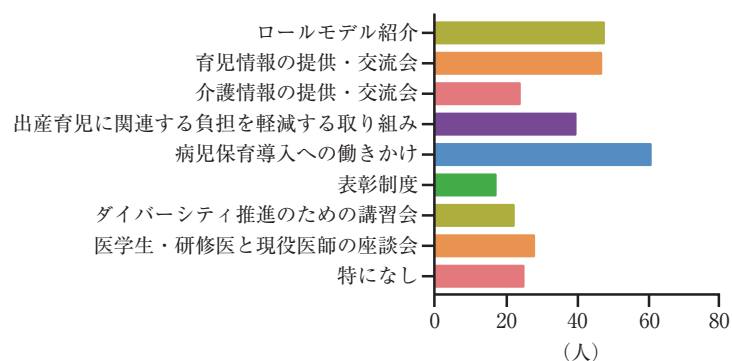
■ 育児・介護を行なっている方に質問します。情報をどこから得ていますか（複数回答可）
（n = 77）。



■ お子さんがいる方、妊娠中の方にお聞きます。育児用品のフリーマーケットが開催される場合、参加したいですか（n = 66）。

ぜひ参加したい：14名（21.2%）、参加を検討したい：33名（50%）、参加しない：19名（28.8%）

■ 今後、ひと尋の会の活動として期待するものを選んでください。複数回答可（n = 150）。



e) 困っていること、ご意見

■ 現在、育児と家庭の両立でお困りのことがありますか（一部抜粋）。

- 仕事が多忙で、家族・子供と過ごす時間が少ない。
- 子供の急病時の対応が大変（休みを取りにくい）。
- 病児保育の利用で困ったことがある。
- 育児に関して上司・周囲の理解が得にくい。
- 女性だけではなく男性も対象とした講演会や相談窓口を希望する。
- 夜まで小学生を預かってくれる場所がほしい。

■ ご意見がありましたら自由にご記載ください。

- 育児をしながら働き続けるという意識、システムの醸成が必要。
- 利用しやすい病児保育施設を大学内に作ってほしい。
- 育児を夫婦間分担してキャリアを継続する意識づけを医学生に対して行なってほしい。
- 育児中の医学生に柔軟に対応してほしい。

3-② マタニティスクラブレンタルサービス開始

新潟大学医歯学総合病院に勤務する妊娠中の医師を対象とした取り組みです。2023年9月から開始しました。新潟県女性医師総合支援センターの協力を得て運営しております。

妊娠による体型変化に伴った医療着のサイズアップに対応して妊婦用のスクラブ(上・下) 2セットと白衣1枚を無料で貸与しています。

サービス利用者には、各種相談やひと尋の会のイベントの告知を行います。当会との結びつきを深め、妊娠から出産、育児、復職へと様々に変化するライフイベントを理由にキャリアを断念することなく前進するためのお手伝いすることを目的としています。



利用開始後3ヶ月で5名の利用があり、「スクラブがかわいいと周りからも評判だった」「お腹周りがキツくなっていたところだったので助かりました」と好評の声をいただいております。今後も多くの方のご利用をお待ちしています。

3-③ ひと尋の会 virtual café の開催

2020年からキャリア支援の取り組みの一環としてオンラインでの講演会・ワークショップを開催しています。今年度は、育児と仕事の両立に不安を抱える医師が多いことを受けて、子育てと仕事をテーマとした第12回ひと尋の会 virtual café を「子育てと仕事悲喜こもごも」と題して開催しました。学内外の3人の先生からご講演いただき、多くの先生からご視聴いただきました。また、今回から以前からの要望が多かった録画配信を開始しました。

第11回までのひと尋の会 virtual café 開催状況

開催回	開催日時	講演担当
第1回	2020.11.19	県医師会理事高井先生、皮膚科
第2回	2020.12.15	腎・膠原病内科
第3回	2021.02.18	産婦人科
第4回	2021.06.01	小児科
第5回	2021.07.27	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
第6回	2021.09.28	呼吸器・感染症内科
第7回	2021.11.01	精神医学
第8回	2022.01.25	呼吸循環外科
第9回	2022.02.14	医学研究・診療応援プログラム
第10回	2022.03.01	生涯キャリアヒストリーワークショップ
第11回	2022.05.16	形成・再建外科

ー 日時

2023年11月17日 17時～18時

ー 方法

オンライン開催、録画配信あり

ー 参加人数

リアルタイム配信視聴者37名

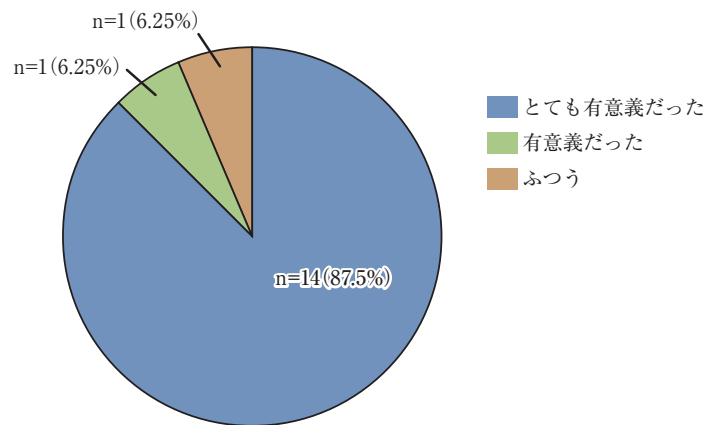
ー 開催概要

1. 開会の挨拶 ひと尋の会会長 染矢 俊幸先生
2. 島 賢治郎先生 新潟大学医歯学総合病院 呼吸器・感染症内科 特任助教
「当家の実情」
3. 福井 直樹先生 新潟大学医学部医学科 医学教育センター 准教授
「祖父母と仲間に支えられた子育てと医師生活」
4. 櫻井 結華先生 東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科講座 教授
「医師キャリアを振り返る～育児は贈り物～」
5. 閉会の挨拶 新潟大学医学部医学科 医学教育センター 教授 岡崎 史子先生

島先生からは、子育て現役世代代表としてリアルな日常をお話いただきました。夫婦で医師として働きながら育児をしてきた日々の振り返りや具体的な取り組み、特に困ること（子供の急病時の対応）について共有いただきました。福井先生には、子育て先輩世代代表としてご自身の仕事と育児の歩みをお話いただきました。家族、先輩、同僚の先生方と協力して育児に取り組まれてきたことが印象的でした。東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科講座の櫻井先生からは、育児とキャリアを両立されてきたこれまでの経験談をお話いただきました。育児で大変な時も「育児は自分が成長できるきっかけかもしれない」「育児中でもささやかなチャレンジを続けることが自分の強みの創出につながっていく」と前向きに仕事と家庭を両立させる姿勢に感銘を受けました。またダイバーシティや女性医師キャリア支援に携わってこられた経験に基づいた提言をいただき、勉強になりました。

ー 講演後アンケート

16名が回答



ー 参加者の感想 (一部抜粋)

- 櫻井先生の若手に達成感を与えるという点が非常に勉強になりました。
- 皆さんが日々綱渡りであることがわかって、励みになりました。
- 各先生方それぞれで様々な工夫をしながらキャリアを育んでいかれていることに感銘しました。
- 久しぶりの開催で、よかったです。以前のペースぐらいでの開催を期待します!!
- 櫻井先生が仰っていた「やる気」に繋がるような課題、仕事への出会いが大事だなと思いました。また、子育て期間に女性がキャリアを停滞させがちな現状が少しでも改善できたら良いと思います。
- 育児をされてきた人生の先輩方のお話を聞けて大変参考になりました。
- 先生方のプライベートな話をざっくばらんにお聞きすることができて大変有意義でした。育児などをする際に今後より一層医局の理解(勤務の調整、育休取得など)があるといいのかなと思いました。
- 出産・子育ては理解のある上司や同僚、家族がいてこそ乗り越えられるものだと改めて感じました。このような風潮が他の職種にも広がって欲しいと思いました。
- 前半2題は、身近な先生方の育児とキャリアの両立の実際や工夫、特に夫妻で協力し合い、それぞれの立場を尊重する姿勢が不可欠であると改めて感じました。櫻井先生の講演は、育児中だからとしり込みしないで、挑戦することや育児を介して人として成長することなど、キャリア形成への熱いメッセージが伝わりました。
- 行き当たった業務を大事にしていく姿勢に多くの学びがありました。
- 医局に所属しながら、子育てを続けている身として各先生方のお話は実感のこもった内容でとても興味深く拝聴しました。
- 組織としての体制づくりの強化をぜひお願いしたいです。
- オンデマンド配信はとても有益でした。今後もぜひお願いします。

3-④ 第1回ひと尋の会フリーマーケットの開催

人と人、人と物のつながりを作っていくことを目的として、フリーマーケットを開催しました。
家にある不用品、譲りたい物を出品し、希望者に購入していただきました。

育児用品、参考書など多岐にわたる出品があり、多くの参加者で賑わいました。



ー 日時

2024年1月23日・24日 12時-13時

ー 場所

新潟大学医学部医学科医学教育センター

ー 対象

新潟大学医学部医学科職員、
新潟大学医歯学総合病院職員、医学生

4 編集後記

2021年からひと尋の会の活動に携わるようになり、3年目を迎えました。今年度は体制が新たになり、これまでの活動の継続に加えて新しい活動も開始しました。当会に求められていることを実行するために悩みながら手探りで活動しておりますが、参加者・利用者の方から温かい言葉をかけていただく度にありがたさを感じ、次の活動への意欲となっております。医学生や医療者の誰もが幸せに学び、働き続けられることを目指して、これからも会が広く認知され、より支援の輪を広げていけるように活動してまいります。

今後とも、皆様のご支援ご協力のほど、お願い申し上げます。

ひと尋の会事務局 青木 亜美

2023 Activity Report

